

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○ 《生活指導の充実・基本的な生活習慣の定着》

5つのとりくみ（「あいさつ」「時間」「服装」「言葉づかい」「清掃」）の習慣を自主的に発揮できるように、さまざまな場面で生徒へ意識させている。特に、「時間を守ること」への意識向上について、クラス、学年、学校全体へと促してきた結果、全校集会のスムーズな開始、チャイム着席の定着など、学校全体としての意識は高まっている。また、毎月、全学年一斉に遅刻指導日を設定し、遅刻の多い生徒への指導とともに、遅刻連絡カードを利用した保護者への協力要請を継続していることで、遅刻指導の対象生徒数は多い時で全学年 6～7 名程度である。しかし、中には、本人の生活習慣の乱れ、家庭環境の不備などによる遅刻の常習化等、改善が困難な生徒が一部にみられるため、今後も基本的な生活習慣の定着に向けて実施する。

また、昨年度の校内調査における「学校の決まり（校則）を守る」という項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と肯定的に答えた生徒は 2 年生が 92%、3 年生が 97% で、目標値の 90% に達している。上級生になれば高い数値を示しているが、1 年生については 84% と他学年より低く改善しなければならない点である。

さらに、H28 年度→H29 年度で示すと、暴力行為は 3 件→4 件、と増加しているが、全ての事案に対して適切に指導を行い解消している。不登校生徒については 22 名→25 名と増加しているが、課題に向けて引き続き、保護者および関係諸機関（子相・区役所・SSW 等）との連携を強化していく。

○ 《防災・減災教育の充実》

防災訓練は、毎年、地震・津波を想定した訓練と火災を想定した訓練を実施している。また、土曜授業では 2 年生で消防署・地域と連携した防災訓練を実施している。職員には防災計画や防災冊子を配布するとともに緊急対応の方法を周知し、生徒には防災冊子や資料をもとに防災学習を通して防災意識を高めた。AED を使った救急救命研修も実施した。昨年度の学校評価アンケートの「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかつている」の肯定的回答が全体で 88% に達し、前年度より 3% 上昇した。1 年 79%、2 年 91%、3 年 95% と学年が上がるにつれ割合は高くなっているが、全学年が目標値の 90% を達成できるよう方策を改善する。

○ 《人権教育の充実》

「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」と「人権の大切さについて十分学んでいる」の肯定的回答は全学年とも、85% 以上であった。「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的回答は全学年とも 85% 以上であった。「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」の肯定的回答は目標の 85% に届かなかつたが、平和学習会で『現代の戦争』について学び、1 学年のフィールドワーク、2 学年の職場体験、3 学年の妊婦体験と進路学習など、各学年の総合的学習の取組の他、家庭科オープン講座『乳幼児ふれあい体験（ピヨピヨクラブ）』を行うなど、多様な取組を行うことができた。

○ 《道徳教育の充実》

「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」の教職員の肯定的回答は 88% であった。目標の 90% には届かなかつたが、今年度も学年教員によるローテーション方式を取り入れ、全教員が道徳の授業を行うことができた。「道徳授業の工夫・改善に努める」の教職員の肯定的回答は 94% であった。今年度は私たちの道徳や副読本のあかつぎに掲載されている読

み物教材だけではなく、様々な読み物資料やグループ活動を通して、各教員が道徳授業を工夫することができた。

○ 『自尊感情・自己有用感の育成』

学校評価アンケート（生徒）より「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について、肯定的に回答した割合は1年 60%、2年 75%、3年 75%であった。「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目については、1年 87%、2年 90%、3年 96%、「自分にはよいところがあると思う」の項目については、1年 73%、2年 68%、3年 93%という結果であった。

学校での教育活動としては、2年生による地域清掃、職場体験、土曜授業での防災訓練、乳幼児ふれあい体験、図書館開館等の学校元気アップ事業による活動等が関連している。また、地域行事の際、地域住民として自らボランティア活動に参加したりなど、地域貢献している生徒も多く見られる。地域の人々と連携して活動することで、地域住民としての自覚をもたせるとともに、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めさせる活動が今後も大切である。地域との連携によりボランティア活動の推進を図ったり、小中連携・地域連携による地域行事参加や音楽コンサートを実施することで、人と人との交流を通して心豊かな青少年の健全育成を目指している。全学年が90%以上になるように今後、取組をすすめていきたい。

○ 『家庭学習の習慣化』

昨年度の学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は、3年生は指標の75%以上を達成できたが、1・2年生は達成できなかった。今年度以降は、家庭学習の重要性をしっかり教え、家庭学習の方法を身に付かせる手立てを企てていく必要がある。

○ 『主体的・対話的で深い学びをめざした「わかる・楽しい授業」の創造』

授業に関しては、昨年度の生徒の学校評価アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合は、2・3年は指標の85%以上であった。保護者の学校評価アンケートの「学校は、子どもたちの学力充実のために努力工夫をしている」の肯定的評価の割合は、全学年70%以上であったが指標の85%には到達しなかった。目標に到達するために「わかる授業」の実現のために努力していくことは必要不可欠である。

○ 『健康な生活・体力の向上』

昨年度の健康な生活アンケートで「意識して健康な生活をしている」については、肯定的回答の割合が全学年、男女とも53%~68%にとどまり依然低い数値である。様々な機会を通して、情報提供や啓発活動を行わなければならない。平成29年全国体力・運動能力、運動習慣調査結果より、男女ともに課題であった全身持久力を示す20Mシャトルランについては、昨年度→今年度を示すと、男子75.16→80.75(+5.59)、女子53.01→53.73(+0.72)とアップした。

○ 『開かれた学校の構築』

学校評価アンケート(保護者)の「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」という項目で、1年 93%、2年 82%、3年 87%であった。通信やホームページ等で情報を提供しているが、中には保護者に連絡が届いていないケースもしばしばあり、できるなら配付プリントを全てホームページに掲載してほしいという要望もある。ホームページの有効活用についての見直しと改善が必要である。

○ 『言語力や表現力、論理的思考能力の育成』

言語力や表現力、論理的思考能力の育成をねらいとして、テーマを与えて「書く」「描く」機会を設定している。その一つに言語活動・表現活動に関する各種コンクールへの参加や出品を、夏期

休業中の課題にし、生徒がいくつかの課題から自ら選択して取り組めるよう工夫した。平成29年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数について、平成28年度よりも参加数は約1500名から約1900名に増加するとともに、参加部門数も新しく10部門増加した。特に国語科、社会科、美術科では、昨年と同様に多くの生徒が参加することができた。各種検定についても参加募集や案内ポスターを掲示して奨励し、漢検は校内でも2回実施した。また、それらのポスターを見て自発的に作品を提出する生徒も出てくるようになってきた。

教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒にすすめることや、全校集会等で表彰しHPでも披露することで、年々、生徒の関心意欲の向上や言語活動の充実が図られている。

H28・29年度の参加状況等については次の通りである。

検定・各種コンクール・コンテスト・発表等の結果について

内容項目・タイトル	H28 年度	入賞者数	H29 年度	入賞者数
英語検定	28 名		76 名	
漢字検定	82 名	41 名合格	97 名	
税の作文	3 年全員	8 名入賞 (代表で朗読1名)	3年全員	6 名入賞 (代表で朗読1名)
税の標語	3 年全員	1 名 入賞	3年全員	優秀賞 2 名(3 年)
読売新聞主催作文コンクール	1 年 1 名	1 名 優秀賞	16 名／16 名	
JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト★			3 名	
田辺聖子文学館ジュニア文学賞★			5 名／8 名	
人権啓発詩・読書感想文★			76 名	
学芸サイエンスコンクール★	書道部門	10 名／390 名	10 名／358 名	
	小説部門		2 名／3 名	
	詩部門		2 名／5 名	
	読書感想文部門		3 名／3 名	
	作文部門		1 名／11 名	
わたしたちのくらしと生命保険作文コンクール	1・2 年 36 名	1 名 佳作	21 名／23 名	
交通安全ファミリー作文コンクール	42 名		17 名／20 名	
手紙作文コンクール	はがき部門	1 年 20 名	1 名 佳作	5 名／21 名
	絵手紙部門	2 年 120 名	2 年参加賞	20 名／20 名
第 49 回手紙作文コンクール	1 年 20 名	1 名入賞 佳作		
	2 年 120 名	2 年参加賞		
“社会を明るくする運動”作文	1 年 7 名	参加賞	7 名／12 名	
思わず笑顔になる文章コンテスト★			4 名／7 名	
河野裕子短歌賞★			20 名／23 名	入賞 2 名(2 年)・ 入選 2 名(2 年) 最優秀校受賞
青少年読書感想文全国コンクール	1 年全員		53 名	
人権啓発キャッチコピー	2 年全員	4 名入賞	1・2 年全員 3 年有志 2 名	優秀賞 1 名(2 年) 佳作 3 名(2 年)
私の折々のことばコンテスト★			4 名／18 名	
全国小・中学校作文コンクール (読売新聞社)			55 名／74 名	佳作 1 名(1 年)
青春俳句★			3 年全員	
産経ジュニア書道コンクール (自主応募)			1 名(1 年)	中学生以下ジュニア賞 受賞 1 名(1 年)
全日本小・中学生書道紙上展			1 名	入選 1 名(2 年) 準ベスト 50
人権啓発標語				
絵画・写真コンクール 『絵画の部』	46 名	1 名 佳作	83 名	最優秀賞 1 名(2 年) 特別賞 1 名(2 年)
大阪市読書感想画コンクール	8 名	1 名入賞	8 名	優良賞 1 名(2 年)
読書感想画中央コンクール	1 年 1 名	入選		
大阪成蹊アート＆コンペティション	3 年 1 名	1 名 銀賞	3 名	銅賞 1 名(2 年)
ワールドトーク★			2 名(2 年)	
生徒理科研究発表★			1 名(1 年)	佳作 1 名(1 年)
大阪市中学校放送コンテスト新人大会★			4 名(2 年)	
中国語弁論大会参加	2・3 年 2 名	1 名 優秀賞		
日本・スイス青少年交流使節団派遣選抜	3 年 1 名	1 名		
適切なネット利用対策実践事例コンクール	生徒会	佳作		

2 学校運営の中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の決まり（校則）を守っている」について肯定的回答の割合を 95%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 85%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的回答の割合を 95%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
- 平成 33 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 95%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 85%以上にする。

【その他】

- 平成 33 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 28 年度より増加させる。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 70% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 90% 以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の

考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 30 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 85%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80%以上にする。

【その他】

平成 30 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

-
-
-
-

学校園の年度目標

-
-
-
-
-
-

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

-
-
-
-

学校園の年度目標

-
-
-
-
-
-

【その他】

-

大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○ 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 ○ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 	
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90%以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」「人権の大切さについて十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 80%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 80%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 70%以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 90%以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> いじめ・暴力行為の被害の未然防止・早期発見・早期対応に向け、「いじめアンケート」「被害調査」を実施する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 「いじめアンケート」は各学期末（年3回）、「被害調査」は2・3学期初め（年2回）実施し、生活指導上の諸問題（いじめ・問題行動等）の件数を前年度より減少させる。 	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関・地域と連携した防災・減災教育、防犯教育を実施し、安全を守るためにの力の育成する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、防災、防犯についての取り組みを年間3回実施する。 	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> 校内美化を図り、情操面や安全部面で落ち着いて安心できる教育環境を整備する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート（生徒・保護者）で「校内美化や環境整備ができている」の項目について全学年80%以上にする。 	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業時間を確保し、年間指導計画に基づいて様々な内容項目の資料や読み物を活用して授業を進め、教員間で情報交換する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年間35時間の道徳授業を実施し、指導案を保存する。 道徳教育の充実に向けて、年間5回の道徳教育委員会を開催する。 	
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 障がい者学習を通して、障がいについて考え、障がい者の人権について正しく理解し、共に生活していくための社会づくりについて学ぶ。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 取組の前後に生徒アンケートを実施し、「障がいについて理解できている」という肯定的回答の割合を85%以上にする。 	
取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 我が国の伝統文化や芸術鑑賞の機会を設定し、芸術に親しみ伝統や文化を大切にする豊かな心を育成する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞会後のアンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を80%以上にする。 	
取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 <ul style="list-style-type: none"> 地域行事での演奏や小中合同での音楽コンサート等を実施し、地域の人々との交 	

<p>流を図り、自尊感情や自己有用感を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事での演奏数を昨年度の 6 回から増やす。 <p>取組内容⑧【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学年だよりで、学校の状況を平日は毎日公開する。 	<p>(学校サポート改革関連)</p> <p>(ガバナンス改革関連)</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧数を平均 120 件以上にする。 	
<p>取組内容⑨【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアや学校図書館補助員と連携し、学校図書館の機能を「読書センター」及び「学習センター」としてさらに高め、学校図書館の活性化を図る。 	<p>(学校サポート改革関連)</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容】について</p> <p>① 【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>② 【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>③ 【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>④ 【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>⑤ 【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>⑥ 【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p>	
<p>今後への改善点</p>	
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>	

大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。 ○ 平成 30 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。 ○ 平成 30 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85% 以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身についている」「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。 ○ 平成 30 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80% 以上にする。 ○ 平成平成 30 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 85% 以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80% 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用プリント教材を用意する等、家庭学習が定着するように工夫する。 ・教科会等で連携を取り、習熟度授業、チームティーチングを充実させる。 ・土曜授業参観等で保護者のアンケートを取り、授業の研鑽を図る。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を75%以上にする。 ・実施した習熟度授業、チームティーチングの時間数を、全授業時間数の3分の1を超えるようにする。 ・土曜授業参観でのアンケートについて肯定的回答の割合を70%以上にする。 	
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、分かりやすく工夫した授業を充実させる。 ・情報教育委員会を中心に、ICTの活用状況を毎月報告し、特にタブレット端末を活用する。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業を、全教科で実施し、ICT機器の授業等活用例について校内研修を年間3回実施する。 	
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業に全身持久力を高める運動を取り入れ、継続する。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業の中で毎回筋力トレーニングを実施する。 	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや掲示物などを通じて、意識して健康な生活をするように情報提供や啓発活動を行う。 <p style="text-align: right;">(マネジメント改革関連)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の健康な生活アンケートの全項目において、年度末の肯定的回答の割合を年度当初より上昇させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について	
① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ② 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ③ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ④ 【施策8 健康や体力を保持増進する力の育成】	
今後への改善点	
① ② ③ ④	

大阪市立堀江中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 <input type="radio"/> 平成 30 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】 • 言語活動に関する各種取り組みの成果や案内等の情報を伝え、積極的に参加させる。 (カリキュラム改革関連)	
指標 • 平成 30 年度の学校外のコンクールおよび作品募集や各種検定等の参加数を、平成 29 年度より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について ① 【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】	
今後への改善点	